

# 航 跡

— 25 —

早稲田ヨットクラブ会報

平成2年4月発行

発行者・事務局長 木村光成

編集・広報室 米川晴二

石田晋也

## 90年度 クラブ総会・開催

3月1日、永楽クラブで、OB多数参加して開催。予定議事、89年事業報告、決算報告、監査報告を先づ満場一致で承認。引き続き、90年度の事業計画、予算案を決定した。

波乱万丈だった88年以降の大問題も全OB諸氏の力強い団結で乗り切ってホッとした雰囲気であった。

現役部員の役員承認につづき、新OBも紹介され、OBバッジが小沢会長から授与された。

### 〔89年度事業報告〕

1. 臨時合宿所火災問題の解決報告
2. OB会費 自動振込制 (約100名登録済の件)
3. 秋のつどい 60名参加 11月
4. 関東10大学クラブ戦 7位 6月 諏訪湖
5. 4大学OB戦 3位 10月 琵琶湖
6. 太平洋稲門会に参加 8月 三崎

### 〔90年度 事業計画〕

1. OB名簿の改訂 4月
2. 関東10大学クラブ選手権 諏訪湖 6月
3. 夏のつどい'90 三戸浜 8月
4. 実技応援 岩井 8月
5. 4大学OBレース (当番・慶応) 10月
6. 秋のつどい'90 11月
7. 会報「航跡」の発行 (年2回)
8. 理事会 毎月第3木曜日

## 現役 関東インカレ優勝

89・5・3 森戸海岸

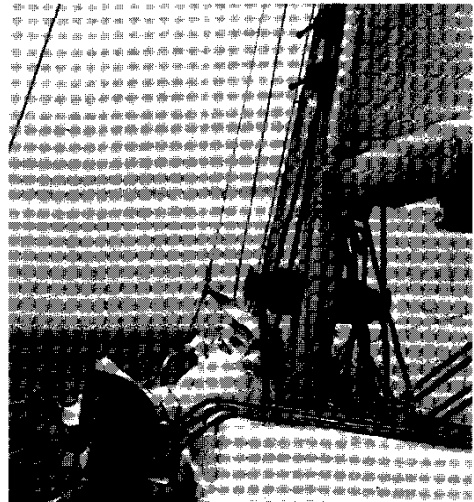
苦難の年を現役諸君は頑張って早稲田を支えた。混乱の後のチームは、ともすると団結が乱れBクラス、Cクラスに転落するものですが、OB諸兄の精神的な支え激励、物質的支援の両々相まって危機を乗り切りました。全OBの皆様と共に喜びたい。

〈関東インカレ〉5月始め、強風下のレースで優勝

- 470級 ①早大 ②関東学院 ③明大  
 スナイプ級 ①口大 ②早大 ③慶大  
 総合 ①早大 ②口大 ③関東学院  
 個人470 ①田中・白都 (早大)  
 ②国近・野原 (早大)  
 スナイプ ②矢口・柳川 (早大)

〈全日本インカレ〉11月、ベタの中でのレース

江の島、11月という風を期待しての設定で本年より実施されたが、皮肉にも全日本はやっぱりベタ!になってしまった。総合3位となる。



帆走中の稲電

## 1990年度ヨット部役員

- 部長 矢頭敏也(教授)  
 講師 石井章夫(28)  
 総監督 加藤文生(33)  
 監督 小池充郎(57)  
 主将 諏訪康弘  
 主務 野原信広  
 副将 田中年彦・藤原雅史  
 学連係 槐島 健  
 OB係 大浜 啓・杉野弘明・鈴木一哉  
 副務 市川 健  
 レスキュー 菊池正滋  
 船能係 木 令一  
 コーチングスタッフ  
 470 鎌田 等(58)・佐々木陽一(59)・野本久(61)  
 野本 久(61)・石井康夫(63)  
 スナイプ 森田朋愛(58)・小野芳夫(59)・市井久也(59)  
 受験担当 瀬川洋二(60)  
 コーチ補佐 国近規仁・白都 務

## 1989年度成績

	470 級	スナイプ級	総 合
春季関東インカレ	1 位	2 位	1 位
早 慶 戦	負	勝	勝
同 志 社 戦	勝	負	負
三 大 学 戦	2 位	2 位	2 位
六 大 学 戦	1 位	1 位	1 位
秋季関東インカレ	2 位	6 位	4 位
全日本インカレ	5 位	2 位	3 位

# OB夫妻 太平洋横断

## 40年OB 千葉右一君 侑子夫人

昨年6月10日、横浜岡本のハーバーを出港した千葉右一君(昭和40OB)と侑子夫人は愛艇うつせみ(空蟬)を馳って太平洋を横断。90日でサンフランシスコに入港した。1月下旬にはメキシコを目指すとの情報まで入っている。以下は同期の斎藤龍雄君に來た手紙からの抜粋。

お手紙ありがとうございます。岡本造船所のこともありがとうございます。お世話になった一人一人にハガキを書きました。熊沢氏にはこちらのヨット情報誌LATITUDE38を送りました。こちらの記者達に空蟬を説明するのに苦労しました。どうもこの辺りには蟬はいなくて解らない様で、面倒くさくなり辞書まで持ち出しましたが遂に蟬はかわいいそうに“こうろぎ”になってしまいました。

2ヶ月近くオカを楽しんでいるので航海のことも半ば忘れかけているので日記を見ながら書いてみます。



H1.4.21. 於艇内、試験航海。油壺到着後侑子夫人と左から斎藤君、千葉君、侑子夫人、マグロの柴崎・小島両君

浦賀水道を出たあたりで侑子ダウン。小生も野島崎の灯台が見えなくなってからダウン。二人して12H昼頃まで寝たままデッキには一度も出ず。

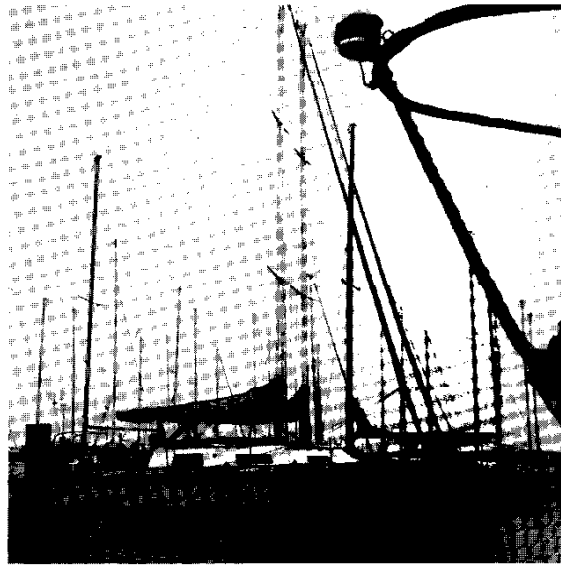
16日の晩から19日までやたら吹かれ、風向計・風速計がマストからフック飛ぶ。レーダーリフレクターも壊れアルミ板一枚だけ残る。3ポンまでリーフ。

あとはずっと風なし。26H初交信。7月8日・イルカの群れを見る。フネの下をくぐったり並んで泳いだり、以後何回も会うが、イルカがくる時は必ずベタになる。7月9日夜・トロール漁船の漁場につつまむ、タックしてよけたが寝てたらどうなったか、ゾッとする。

7月27・28日・ハワイから上ってきた熱低あり、ストームジブ1枚、7月29日・イカが飛びこんでくれた。何かに追いかけられたイカの群が、海から飛び上る様はすごい。即3匹イカソーメン。

8月3日・セールを下して寝ていた朝、起きたらマンボウがフネの下にいる。小生より大きい。昼頃まで離れず。

8月5日・フネが動き出してもスピード計が動かない。センサーを抜いてみたら貝がこびりついていた。風がな



H1.6.10. 小雨の中静かに出発を待つ「空蟬」。ビールと食料で深く沈み込み水線が見えない。岡本にて

いんだからしようがないか。

39°Nあたりをずっときたが、36°台まで南下(風はN)8月20日から又Nへ行く。38°Nを越えて、9月3日から4日間、結構なN風(最大ストームジブ)で。その後は又々ベタ。

サンフランシスコ入口にはチャートによるとU3ゾーンというのがあって、潜水艦のいるところ。北へよける。

9月10日・朝0530、ポイントレイ視認、うれしくて岸近くまで寄ってみる。サンフランシスコへは30マイル弱だが、ベタでは夜になる可能性があるので遅れついでに流し、入港は翌日にする。そんなこんなで90日以上。

エンジンは充電(1日30分~1時間)だけに使ったがこれからは機走もすることに。

本船とは10隻位には会った。みんな近くで止って見てくれる(20分位)ので心強い。VHFで話した(4回)位置を教えてくれたりありがたい。でも1回は夜中で、至近距離におり大あわて。むこうもレーダーに映らないとかいうのでライトでセールを照らして事なきを得た。

ヤバカッタ。(9月8日)

HELLO BIG BOAT!!という“THIS IS BIG BOAT”なんてフザケタ奴だったが、スターンを通るから直進しろとなかなか親切。

身体の方はまず健康そのもの。小生カゼ1回、便秘2回、腹コワシ2回のみ。もっとも胃腸薬ははずい分と喰べた。精神的には出港後1ヵ月位目が少々おかしかった。風はないし、これじゃいつ着くか判らないし、よっぽどハワイに行っちゃおうかと思った。(実は、内緒でハワイのチャートも買ってあった)でもその後は大丈夫。

今いる湾はハーバーだらけ、全部水置きで立派なポンツーンがあり、テンダーで…なんてところは皆無。ポンツーンと陸との間は鍵のかかる金網があり安全。大きいものから小さいのまで皆フネの手入れは良くきれい。修理取りつけは自分でやっているようで、ポートヤードはあるけれど、ポートサービス(山下の様な)はない。ポンツーンには一隻づつ1m立方以上の工具入れが備えつけら

《4頁へ続く》

# 激動の一年をふり返って

'88年度主将 川原 康嗣

10月19日夜7時頃、同期からの電話で合宿所の火事を知った。詳しいことはよく聞かなかったので、先ず考えたのは現役の部員(つい2ヶ月前まで同じ釜の飯を喰っていた)奴等が寝るところはあるのか、着るものは、夕食は、お金はということであった。



家から(自分の家は料理屋)持出せるだけの食べ物と毛布、衣類をトランクにつめ込み、葉山までとばした。

現役は、他の大学の方々に借りは衣類を着て、見慣れない格好をし、唯ぼう然と毛布にくるまっていた。

後始末をしに仁木宅へ行った時には、始めは声も出なかった。生れて初めて身近に起った火事という災の事態の大きさに改めて気づかされ、混乱から立ち直るまでしばし時間を要した。

仁木さんのお宅は私が大学2年の時より借り受け、ご主人、奥様には大変お世話になっておりお二人の顔をまともに見る事はとても出来ずただ顔を下げるのみであった。勿論OB諸兄は早くから集まっておられた。

その後何日かの間、私は連絡係やお手伝いの仕事をしたが、その時のOB諸兄の、他の全てをうっちゃって取り組んでいる姿には早稲田パワーの源である侠気の凄さがあった。部の世話役をされて腹をくくらねばならない場面での先輩の笑顔には、何かを大事に、大事にしてきた男だけが持つ輝きがあった。

何週間がたつと、当部として出来ることの大方の予想もつき、現役の活動再開への物資も集まり『災を転じて福となす』的な気運が高まってきた(こう言っでは叱られるが、この火事の一つの効用は食器・ふとんが皆新しくなった事だ)。

学生とOBの一体感は一層高まり良い雰囲気練習は再開された。又合宿所には何本もの消火器が新たに置かれた。これは現役、OBを問わず早稲田ヨットの誰もが誠実に前向きに進んだ結果であることに間違いない。

この気持が春の関東インカレ中現役、OB共に毎朝三戸浜から葉山に通い、優勝をものにした。これは快心の出来事であり、この頃から『事件後』という感じの暗さは去り、日本一を目指すチームの余裕ある殺気がチームに満ちて来た。特に470級は5艇がほとんど変らないレベルでレギュラーを争う等、近年になく高いレベルとなった。

このような劇的なドラマ(にしてはシリアスすぎたが)の1シーンに立ちあえて、改めて早稲田ヨット部に惚れ直し、この部にいて良かった、この部を離れたくないと思ったOB・現役も少なくないと思う。私自身、何もせず見てただけだが男として大変成長できた気がする。

全日本インカレは悔しくも微風続きで優勝を逃がしたが、スナイプ級個戦優勝の矢口君を始め皆着実にレベルは上げてきている。来年こそ優勝できると信じこれからも大いに協力して行きたい。

'89年度主将 清水 宏和

全日本インカレが終了し1ヶ月たちました。今この原稿を書く為ペンをとった時に三つの事を想い出しました。

始めは、昨年10月19日の葉山合宿所火災の事です。強い北風の中で唯一我々だけが練習をしておりました。当初は何事が起ったのか訳もわからず、主将になって未だ日も浅かった事もあり、着る物も何もかも喪失して寒さに震えている下級生達を見てかなり動揺しました。



その日の夕方に小沢会長、並木理事長、加藤前監督をはじめ大勢のOBの方々がかけつけて下さり、罹災した方々や警察・消防署と共に頭を下げて謝罪に回っていた時には、OBの方々に対し何と申し訳けない事をしてしまったのだらうという気持と、これから一体どうなるのだらうという複雑な心境でした。

次に年が明けて『平成』時代の幕開とともに、我々ヨット部もOBの方々の物心両面の多大なご支援のお蔭で練習を再開できるようになり、厳しい春合宿の成果もあって関東インカレで優勝できたことです。

このレースは強風が吹き荒れ『強風の早稲田』の伝統を復活させることができたのです。今年はいけるといういい意味での自信がチームに生まれました。

三番目は全日本インカレに於て、総合3位に終わってしまったことです。我々学生を支えて下さっているOBの方々に報いる為にも、一年間試練に耐え、ヨットに全精力を注ぎ込んできた自分達の為にも絶対に勝つという気持でこのレースに臨みました。

レース期間の3日間共ベタの中レースで、『乱風の早稲田』とはなりきれずにレースは終わってしまいました。

今だから感じる事かも知れませんが、自分としては特に3位に甘んじたということで、又ヨットを続ける気持ちになりました。人間は、全てに満足して物事を終わることはほとんど無いと思います。悔しいと感じたり、負けて涙を流したりしたことを糧として、次のことにぶつかっていくことが大切なのです。来年は後輩達が必ず優勝旗を奪取してくれると信じています。

最後になりましたが、OBの皆様には沢山のご支援を頂きまして、本当に有難うございました。私もこれからはOB一年生となりますが、早稲田ヨットクラブの皆様と共にヨット部を応援していきたいと思っております。また、後輩達の皆んなも有難う。これからは昨年の火事の事を知らない部員が増えてくる事でしょうが、ヨット部が得た教訓を決して忘れないで下さい。(89年秋)



### A級 三大学OBレース 優勝

89・8・20 三戸浜沖、今回で3回目、明治OBの当番運営により3回戦を挙行した。参加は早稲田・明治・日大(残念乍ら中央は連絡手違いで不参加)日大には早稲田艇をチャーターした。

シーズン当初からの現役の活躍に刺激された早稲田は優勝目指して力走。メンバーも若手と老練(ロートル?)を揃え、狙い通り優勝した。2位、日大。3位、明治。

- 〈成績〉1回戦 2位 舟岡(31年)・渡辺
- 2回戦 1位 武藤(46年)・渡辺
- 3回戦 1位 石井(28年)・武藤

#### 《2頁より続く》

れている。

ここは金門橋に近い。9月10日は、沢山のフネの出入りにぎやかだったが、今(11月)は地震のせいでお出入りは少ない。地震で止った水も昨日から出た。

#### 〈侑子夫人の感想〉

無事についてみると、つらかった事も良い思い出になりましたが、3ヶ月満身に洗髪、洗顔そしてシャワーが出来なかった事は、覚悟の上とはいうものの、かなり参りました。こちらに着いて一番始めにしたことは、シャワー。何回も何回もカラダを洗いましたからキット体重2キロ位軽くなったのじゃないかしら。

海の色々な顔をみました。まるで湖の様に水面がビニールでも敷いた様にベターとして。風が少しでも吹いてくると、その海面がチリチリしてくる。チリチリにも、色々あって網目、千鳥格子等々。遠くに白波が見えると私は気分よくなりますが、右さんは忙しくなります。うねりがひどくなると、フネは海の谷間に、山の頂きにと海に浮いた葉っぱになってしまいます。太陽・月の様子も毎日違い、風が吹けば雲も…等々あたりまえの事を改めて、ワー本当ダー、とさざざながらの3ヶ月でした。目下、次の航海に備えて体力調整をしています。10キロやせた右さんは2キロ取戻しました。私は5キロオーバーで、あわてて腹筋運動をしています。

#### 〈その後〉

サンフランシスコで陸揚げ整備をした後、1月メキシコ更に南下、多分今頃は南米沿いを帆走中であろう。

### WUZSEMIの出帆まで

設計：熊沢氏 建造：岡本造船所

- 88.10~89.4 建造
- 89.4.6 進水
- 89.4.21 試験航海、油壺廻航  
(千葉、小島、柴崎、斉藤)
- 89.4.22~5.11 完熟航海 千葉夫妻  
悪天候下、八丈島往復
- 89.6.10 小雨の横浜を出帆。NHKニュース放映
- 89.9.12 リンフランスコ首  
(途中は、ロランによる正確な位置を把握しつつ、熊沢氏に無線連絡。)
- 90.3.15 メキシコを離れ、マケサス諸島  
スクービバ島を目指して出港



三大学OBレース、石井氏を囲んで

### 役員人事 講師に石井氏

当クラブ役員任期は2年であり、昨年が改選時でしたが、特殊問題があった為全員留任して事に当たってきました。本年は従来通りであります。

講師の横田豊氏。今回、日本シャクリー(株)の監査役にご就任、業務ご多忙で3月をもって講師を辞任されます。いろいろお世話賜りありがとうございます。

新しく講師には、石井章夫氏(昭28年OB)が就任されます。皆さんのご協力をお願いします。特に夏の実技指導合宿には、応援に岩井へきて下さい。

### 関西学院ヨット部は早稲田が産みの親!

89年11月、大阪に於いて関西学院大学ヨット部の創部50周年祝賀会が開催されました。当早稲田ヨットクラブとしては長年の好敵手、良き帆友でありますので、並木理事長ならびに関西のOB有志がお祝いに参加しました。その席上関学OBより、関西学院ヨット部は早稲田大学ヨット部OB中橋弥太郎氏(昭和13年卒業、太平洋戦争で戦死)が指導して出来たのだとの話が被披露され、早稲田に対し謝意と友情の意が表明されました。

昭和15年の西宮での初めての全日本インカレ、そのトップグループ慶応・同志社・早稲田・関学その4校がその友情を持続し、今日の四大学OB戦に継承されており

### 編集後記

★昨年秋のあの大事件の解決の為、OB幹部の皆さんに大変ご尽力をいただきました。そのお蔭で無事難局を乗り切れ、今年も希望をもって新しいシーズンに入れることを全OBと共に心からの謝意を表したいと存じます。本当にありがとうございました。

◎太平洋稲門会で西原総長いわく。天ぷらで火事出たからと言って“天ぷら”やめたら駄目だよ、やらなきゃいけないんだと。教育者のすごさを感じさせられました。……しかし、注意してくれよ。タノムヨ!

◎火事は早稲田の運動部の歴史に二件あった。山岳部の山小屋。その為じゃないが今や山岳部なし。馬術部の馬小屋。馬が焼死した。そして……。これで打止め。、、

事件解決したら、現役関東優勝。会報編集どうやって良いか判らずウロウロしていて、遂に一年。総会がすんだら直ぐ出せと理事長厳命。よってかくの如し。

◎千葉右一君の快登。夫人の感想良し。次報を待望。◎次号以下、各OBの洋上の活躍ぶり中心と致したい。話しかせて下さい。(文責・米田晴二)